

## 当院におけるがん地域連携パス 拡大への取り組み

愛媛大学医学部附属病院  
総合診療サポートセンター  
是澤 志保  
亀岡 泉  
坂本 ゆり



## はじめに

- ・医療機関の役割分担と地域連携を推進
- ・がん医療の質の保証と安全の確保



地域連携パスの整備が求められている



## がん地域連携パス導入に至るまで

- ・既往症を複数抱えながらの患者が多い
- ・バリエーションが発生しやすく、パスの導入は困難という意見



パス導入に協力を得られず



## がん地域連携パス導入に至るまで

- ・平成26年1月：肺がんパス対象となる患者が当院へ紹介
- ・平成26年2月：モデルケースで実施を決定



## モデルケースを受け入れて

- ・患者：かかりつけ医の元で安心できる
- ・診療科医師：患者にメリットがあるため継続を希望



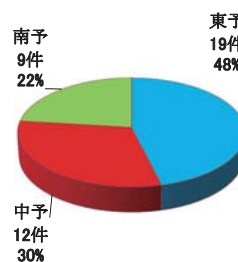
- ・業務負担軽減のため役割分担
- ・導入の医療機関への訪問



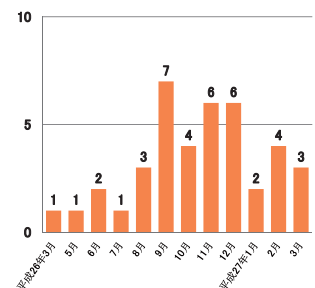
## 肺がん地域連携パス導入件数

(平成26年3月～平成27年3月) n=40件

肺がんパス連携の医療機関  
(地域別)



肺がんパス導入月別件数



## がん地域連携パス導入後

### 【外来看護師】

退院後患者の外来への電話や  
受診相談が多い



導入後:肺がん術後患者は対応が  
減少



## がん地域連携パス導入後

### 【患者】

かかりつけ医との情報共有により、  
自分の今の状態を知ってもらって  
いるから安心



## がん地域連携パスは・・・

患者が安心して地域で継続治療が  
受けられるため、パスは有用

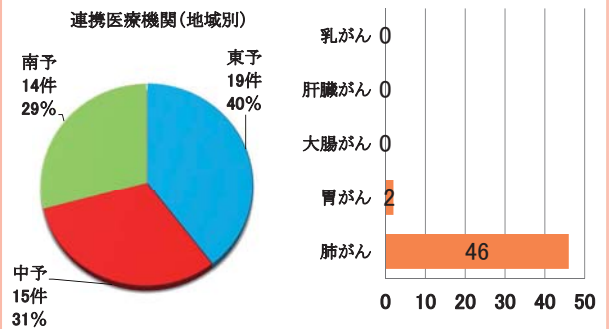


パスの拡大へ取り組み実施  
(胃がん・大腸がん・肝がん・乳がん)



## がん地域連携パス導入件数

連携医療機関及び導入件数 (平成27年度)



## パスを導入することは・・・

- ・患者が安心して地域に帰ることができる
- ・新たな患者の受け入れを増やすことができる



- ・特定機能病院としての役割を果たすことにもつながる



## 今後の取り組み

- ・導入・拡大に至っていない原因の把握
- ・診療科へ働きかけ、パスの導入拡大を行なう



ご清聴ありがとうございました。

